

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

検査・検修 構連・事務 分科会合同会議を開催 (3/26)

検修外注化阻止・国鉄35万人体制粉碎 にむけて、闘う意志統一をかちとる

三月二六日、十時より動力車会館において、「検査・検修・構連・事務四分科会合同会議」は、支部長をはじめ各支部分科会長が参加して開催された。この「四分科会長合同会議」は、検修下廻り外注化をはじめとする合理化攻撃に対応したわが勤労千葉の闘う体制を確立するために、開催されたものである。そして、今後この会議でかちとられた検修外注化阻止・国鉄三五万人体制粉碎にむけた意志統一にもとづいて、各支部・分科会・職場において、徹底した職場討議を早急に深めようではないか。

検修外注化攻撃と闘う 職場体制の確立へ活発な討論

「四分科会長合同会議」は、林本部特別執行委員を座長に選出し、関川委員長のあいさつのうち、ただちに布施交渉部長から「検修外注化阻止・国鉄三五万人体制粉碎にむけた取組みについて」の提起が行われた。

そして、昼食・休憩後、質疑討論に入り、主に、
①検修外注化攻撃と職制「改正」問題 ②エンジンアコースの確立問題 ③検修外注化の具体的攻撃内容。などの点について活発に行なわれ、最後に布施交渉部長から①本日の会議は検修外注化攻撃と闘うための意志統一の場であり、これを職場に定着させ、大衆的な闘いとして取り組んでいく出発点である。

②具体的を闘いの方向は、近く開催する支部代表者会議で決定される。
③討論の中でも出された支部間交流・研修会・対話オルグ・集会など創意ある取組みを行なっていく。

④こうした取組みを背景に申八号・申九号を中心に対当局交渉を強化していく。などの点について提起され、全体で確認ののち、最後に、山口副委員長長の音頭で団結ガンバローを三唱し、終了した。

全職場で徹底した討論を巻き起こそう

この合同会議において、つぎの点を全体で確認した。
①検修外注化攻撃が、運転職場の全職種を巻き込む大々的な合理化攻撃であること。
②今日の政府・自民党・国鉄当局一体となった職場既得権剥奪・職場抵抗闘争圧殺攻撃の激化とも相まって、闘う検修職場そのものを分断・解体し、職場の力関係を逆転し、国鉄労働運動解体を狙った攻撃であること。

③この攻撃に対する国労・動労とりわけ「本部」革マル反動分子の「働こう運動」という裏切りと屈服路線の反動性。

④職場生産点の力関係の逆転を許さず、断固として、国鉄労働運動解体攻撃と対決する基本方針を守って闘い抜く。
⑤当局と一体となった「本部」革マル分子追放・一掃、動労大改革をより攻撃的に闘う。

3.26 春闘
千葉県労働者総決起集会 開かる

去る三月二六日、八二国民春闘中央情勢に先だち、千葉県労働者総決起集会が、千葉市本町公園で二五〇〇名を結集して開催された。公労協Ⅱ国労・全通・動労千葉(二〇五名)を主力に、民間Ⅱ川鉄労組・全国金属労組などが参加し、現情勢がきわめて厳しく、政府自民党の横暴は、われわれの生活は今やがまんの限界をこえています。

それは第一に、政府支配側が、その危機脱出の為に軍事大国化―改憲をもって侵略戦争にうって出るその為に、すべての労働者・人民に犠牲を強いるという、われわれはそうした政府支配側の攻撃をしっかりとみすえ、反戦と結合させ、反撃の陣形を闘うすべての労働者と形成し、今こそ闘いに決起する、その闘いの中で、七連敗という春闘を八二春闘こそは断固として勝利することを、お互いに確認し、集会終了後千葉市のめぬき通り大デモを貫徹し、解散した。

合理化「行革」ダメ!
大巾賃上げを!
三里塚反合82春闘に勝利しよう!

